



各部の名称

CATV上り

帯域切換スイッチ

出力ATTスイッチ

上り帯域スイッチ

CATV上り

出力モニター端子

出力切換スイッチ

CATV下り

入力EQ (TILT)スイッチ

EQスイッチ

入力ATTスイッチ

入力切換スイッチ

CATV上り

電源コード(AC100V)

CATV上り

入力モニター端子

入力ATTスイッチ

CATV下り

入力モニター端子

TILTスイッチ

利得調整ボリューム

CS/BS

利得調整ボリューム

TILTボリューム

P.L.(コンバーター通電確認ランプ)

コンバーター電源スイッチ

接続端子

入力切換スイッチ: 別入力の場合

入力切換スイッチ: 混合入力の場合

※1: コンバーター用電源出力端子としてDC15V重畳して給電できます。

CATV上り

帯域切換スイッチ

出力ATTスイッチ

上り帯域スイッチ

CATV上り

出力モニター端子

出力切換スイッチ

CATV下り

入力EQ (TILT)スイッチ

EQスイッチ

入力ATTスイッチ

入力切換スイッチ

CATV上り

電源コード(AC100V)

CATV上り

入力モニター端子

入力ATTスイッチ

CATV下り

入力モニター端子

TILTスイッチ

利得調整ボリューム

CS/BS

利得調整ボリューム

TILTボリューム

P.L.(コンバーター通電確認ランプ)

コンバーター電源スイッチ

接続端子

入力切換スイッチ: 別入力の場合

入力切換スイッチ: 混合入力の場合

※1: コンバーター用電源出力端子としてDC15V重畳して給電できます。

① 入力切換スイッチの操作

CS/BSとCATV下りの混合入力でご使用の場合

スイッチは右側(混合入力)にセットしてください。

CS/BSとCATV下りを別々の入力でご使用の場合

スイッチは左側(別入力)にセットしてください。

② CS/BSアンテナへの給電

CS/BSコンバーター用電源(DC15V最大6W)を供給する場合は、コンバーター電源スイッチを「入」にしてください。

コンバーター通電確認ランプ(P.L.)が赤色に点灯します。

「切」にすると緑色に点灯します。

④ 入力/出力 ATTスイッチの操作

CATV下り(入力)

70～770MHzがフラットに減衰します。

最大16dBまで2dBステップで設定が可能です。

CATV上り(出力)

10～60MHzがフラットに減衰します。

最大16dBまで2dBステップで設定が可能です。

CS/BS(入力)

950～3224MHzが最大10dBフラットに減衰します。

CATV上り(入力)

10～60MHzがフラットに減衰します。

最大30dBまで5dBステップの設定が可能です。

⑤ CATV下りTILTスイッチ

770MHz付近を基準として70MHzの利得が減衰します。

最大12dBまで4dBステップの設定が可能です。

⑥ ボリュームの操作

後段に接続される機器が過入力にならないよう、TILTと利得調整ボリュームを調整してください。

TILTボリューム、利得調整ボリュームは「反時計回り」いっぱいにしきったとき、利得が最小になります。

〈ご注意〉

・ボリュームは調整用小形ドライバーで軽く回してください。強く回すとボリュームが破損する場合があります。

お取扱いの前に

設置作業は、この取扱説明書をよくお読みのうえ行ってください。

●本製品は屋内専用です。屋外に設置する場合は、必ず防水・防雨ならびに放熱処理を施した収容ボックスなどに収容してください。

●ブースターを落としたり、ぶつけたりしないよう注意してください。

●取り付けに用いる以外のネジを回したり、製品本体のカバーを開けて回路部品に手を触れたりしないでください。前記に伴う故障については、製品保証の対象外になります。

●電源を供給する前に機能アースを必ず接地してください。なお、機能アースは安全アースではありません。

●この製品に接続する同軸ケーブルが7Cタイプの場合には、必ずコンタクトピン付接合器をご使用ください。

●心線の径が1.1mmを超えるケーブルを直接接続すると、変形や接触不良の原因となります。

●接続に使用する同軸ケーブルへの接合の取り付けは、その同軸ケーブル専用の接合を説明書に従って加工してください。

●特殊な加工をしたものを使用すると特性の悪化や機器の破損につながります。

●入出力端子へのF形接合の接続は、接続ナットを2N・mで締め付けてください(締め付けの過不足は故障や障害の原因となります)。

●上り帯域の調整は、必ず管轄ケーブルテレビ事業者の了解のもとで行ってください。

取付方法

●図のように板壁または放熱処理を施した収容ボックスのパネル板に壁面取付金具を付属の木ネジ1本で取り付け、ブースターを掛けてください。次に残りの木ネジ2本でブースターの下側を固定し、しっかりと取り付けてください。

●本製品を1台収納する収容ボックスは、(H)700mm×(W)700mm×(D)140mm以上の大きさで上下に通気孔のあるものを使用してください。

〈ご注意〉

・天井や熱のこもる場所への取り付けは避けてください。

また、必ず入出力端子が下向きになるようにブースター本体を取り付けてください。他の方向に取り付けると放熱効果が失われ、性能が維持できなくなる場合があります。

・ブースターを複数台設置する場合は、50mm以上間隔をあけて取り付けてください。

調整方法

〈調整の流れ〉

手順1

入力信号レベルの確認

手順2

入力信号レベルの調整

手順3

出力信号レベルの調整

〈参考〉カスケード(多段)接続時の運用

■CATV下り帯域の調整

■手順1：入力信号レベルの確認

・ヘッドエンド側からの同軸ケーブルをこの製品に接続する前に、測定器(レベルチェッカーなど)を使って、この製品への入力レベルが図1または図2の範囲内であることを確認してください。

※範囲を超えるレベルを入力すると、故障の原因となる恐れがありますので必ず範囲内で使用してください。

入力レベルが図の範囲を超える場合は、アッテネーター(別売品)で範囲内に調整してください。

※カスケード(多段)接続の場合や、後段(端末側)のレベルが、この製品の調整機能で調整しきれない前段(ヘッドエンド側)のブースター等の利得調整ボリュームおよびTILTスイッチで調整してください。

■手順2：入力信号レベルの調整

1.出力端子を75Ωで終端し、入力端子にヘッドエンド側からの同軸ケーブルを接続します。

2.入力モニターレベルが48dBμVを超えないように下記要領で調整してください。

① 逆TILTの場合

② TILTの場合

③ 入力レベルが低い場合

④ TILT入力の場合

■手順3：出力信号レベルの調整

1.出力レベルが110dBμVを超えないように利得調整ボリュームとTILTスイッチで調整してください。

なお、出力モニター端子は、出力端子に対して20dB低い値を示しますが、出力端子が開放時は正確な値を示しません。正確な値を測定するために、出力端子には端末側の同軸ケーブルを接続(または75Ωで終端)してください。

2.接続後の出力レベルを確認する際は、出力モニター端子を利用してください。

■CATV上り帯域の調整

〔事前確認〕ケーブルテレビ事業者により調整方法が異なりますので、必ず管轄ケーブルテレビ事業者に確認・了解のもとで行ってください。

テスト信号発生器が必要になります。また、テスト信号のレベルは使用するシステムの伝送損失(分岐、分配、同軸ケーブル、壁面端子等)で異なります。テスト信号のレベルおよび周波数については加入エリア管轄ケーブルテレビ事業者に確認をお願いします。

〔入力調整〕

はじめに

出力切換スイッチをOFF側に(LEDが点滅)、上り帯域スイッチを「増幅」位置にスライドしてください。上り出力端子からは上り信号が出力されなくなりますので、幹線やヘッドエンドに影響を与えることなく調整が行えます。

調整方法

壁面端子または、下りの出力モニター端子(注1)へ適正に設定されたテスト信号を入力し、測定器(レベルチェッカーなど)を入力モニター端子に接続します。

上り側テスト信号の入力モニターレベルが54dBμVを超えないよう入力ATTスイッチで調整してください。

調整後、上り帯域スイッチで増幅側に設定してください。

〔出力調整〕

出力モニターでレベルが90dBμVを超えないようにTILT、利得調整、出力ATTを調整してください。

また、流合雑音を軽減するために30MHzより低い周波数帯域を使用しない場合は、帯域切換スイッチを30～60MHz側に切換えてください。

※カスケード(多段)接続の場合、後段(ヘッドエンド側)の上り入力レベルが入力ATTで調整しきれない場合は、前段(端末側)のTILT、利得調整、出力ATTで調整してください。

〔ご注意〕

調整が終了したら上り出力切換スイッチを必ず運用側に戻してください。(LEDを消灯させてください)

OFF側(LEDが点滅)では、上り信号は出力されませんのでご注意ください。

〔注1〕出力モニター端子に入力する信号は20dB減衰しますので、上り入力端子に到達するレベルより20dB高いレベルを入力してください。

〈調整の流れ〉

手順1

入力信号レベルの確認

手順2

信号の入力方法の選択

手順3

ケーブルの接続

手順4

測定器の接続

手順5

出力の調整

■CS/BS-IF帯域の調整

※BS・110度CS 4K・8K放送(3224MHz)のレベル確認の際は4K・8K放送に対応したケーブル、コネクターを使用してください。

■手順1：入力信号レベルの確認

CS/BSアンテナの同軸ケーブルを接続する前に、測定器(レベルチェッカーなど)を使って、図3の範囲内であるか確認してください。

入力レベルが図3の範囲を超える場合は、アッテネーター(別売品)等で範囲内に調整してください。(このとき電源をコンバーターへ供給する場合は電流通過用のアッテネーターをご使用ください)

入力レベルが図3の範囲内である場合は、この製品への入力67dBμVを超えないように(図4)入力EQスイッチ、入力ATTスイッチで調整してください。

■手順2：信号の入力方法の選択

入力切換スイッチをお客様の使用環境に合わせて選択してください。(ケーブルを接続する前に選択してください)

2段目以降の増幅器の場合、入力切換スイッチを混合入力側にし、下りCS/BS入力端子に接続してください。

■手順3：ケーブルを接続

出力端子に端末側の同軸ケーブルを接続(または75Ωで終端)してください。

■手順4：測定器の接続

出力モニター端子から付属のモニターキャップを取り外し、測定器(レベルチェッカーなど)を接続してください。

なお、出力端子に同軸ケーブルが接続(または75Ωで終端)されていないと出力モニター端子は正確なレベルを出力しません。(測定後は付属のモニターキャップを必ず取り付けてください。)

※より正確なレベル測定を行う場合、出力端子に測定器を接続してください。

※測定を行う時、非常に高い出力レベルとなる場合があります。測定器故障の原因となりますので入力レベルに注意してください。

■手順5：出力の調整(測定後はモニターキャップを必ず取り付けてください。)

1.最も高い周波数のチャンネルの出力レベルが117dBμVを超えないように利得調整ボリュームを調整し、同様に低い周波数のチャンネルの出力レベルが107dBμVになるようにTILTボリューム(必要に応じて入力EQスイッチ)で調整してください。

2.接続後の出力レベルを確認する際は、出力モニター端子を利用してください。

※出力端子に対して20dB低い値を示します。